

## 正月剣・早月尾根

大阪ぼっぼ会 竹嶋 信祐

ぼっぼ会 2名 + 豊中労山 B班 1名の計 3名混成パーティで正月の剣へ初挑戦。結果は早月小屋にて敗退。厳冬の剣の難しさを身をもって痛感することになったが、得るものも多かった山行であった。

● **日程** : 2019年1月2日(水)~4(金)

● **メンバー** : 大阪ぼっぼ会 T(CL)、豊中労山 B班 K、大阪ぼっぼ会 竹嶋

● **行程** :

1月2日 大阪⇒(車移動)⇒伊折ゲート⇒馬場島

1月3日 馬場島⇒標高 1600m

1月4日 標高 1600m⇒早月小屋⇒馬場島⇒伊折ゲート⇒(満天の湯)

● **1月2日(水)** 天気 : 曇り

伊折ゲートに車を停めて準備。雪がちらついている。H大学の山岳部パーティがいた。話を聞くと敗退してきたらしい。やはり難しいのか。

ここから馬場島へスノーシュー (MSRという急傾斜に強い特殊なスノーシュー) で歩く。ほぼ平坦な道で、除雪車が通っているがそれでも少し歩きにくい。

途中で3人組パーティとすれ違う。このパーティも 1600m 地点から引き返してきたとのこと。

3時間弱で馬場島に到着し、登山指導センターで「山タン」を受け取る。センター近くの施設の下にテントを張る。なお馬場島の小屋は営業終了していたがトイレなどは貸していただくことができ、快適だった。



明るいうちに翌日の登山口の確認に向かう。センターから少し歩いたところにある「試練と憧れ」の碑の裏から山道に入るようだ。

試練と憧れの碑の前で

● **1月3日(木)** 天気：曇り

4:00 出発。前夜確認した山道に入ると、すぐに急登となる。慣れないスノーシューでの急登に苦戦する。急勾配とまったく締まりのない新雪、スノーシューでのキックステップが決まらず脚を上げてもすべり落ちる。雪との格闘。あっという間に体力を奪われ、ペースがガタ落ち。ラッセルも手伝うことができず、悔しさと情けなさ、申し訳なさでシヨンポリ…。

12 時前に標高 1600m 地点に適地を見つけ、ここにテントを張る。

2 日後は冬型の気圧配置となる予報。アタックできるのは翌日のみ。ピークは諦め、早月小屋を今回の目標として、テントを置いたまま空身で小屋を目指すことにした。

● **1月4日(金)** 天気：快晴

3:40 出発。星空の下、再び急登を登りはじめる。振り返ると夜景が煌めいている。徐々にスノーシューでの登坂に慣れてくる。やっとラッセルを手伝うことができる。夜が明けると赤谷尾根の向こう側に日本海が見えてくる。



標高が上がるに連れ積雪量も増えてくる。3 人交代で泳ぐようなラッセル。なかなか進まない。途方もなく続く眼前の白い壁。

しかしふと横を見ると、モルゲンロートに染まる大日岳、赤谷山などの絶景が見える。





11:30 早月小屋到着。

今回は、ここが我々のゴール。ここから先は、またいつかリベンジを・・・。

小屋周辺で絶景をバックに記念撮影後、テント回収を挟み馬場島まで一気に下る。



テニ場から見えた幻日  
(太陽の左右に見える小さく虹色に見える光)

16:55 なんとか日没前に馬場島到着。

登山指導センターに山タンを返した後、さらに伊折まで2時間歩く。もう足がガクガクだが、風呂と酒とメシにありつくと信じ、最後のひと頑張り。見上げれば満点の星空が輝いている。

19:40 伊折到着。頑張りました。。。。

帰りはまず「満天の湯」に寄って、念願の風呂、酒、メシにありつくことができた。

やはり正月の剣は厳しかった。そう簡単には登らせてくれない。しかし今回の経験をもとに、綿密な計画と十分な訓練をもって挑めば、登頂できる可能性も十分あるだろう。次につながる山行になったはずだ。

